

【島のくらしの情報】

犬島

①仕事（収入）の状況	職業によってまちまち。年金生活者が多い。美術館スタッフ、自営業（カフェなど）の島民が数名。
②住居の状況（貸家、空き家など）	現在、地域おこし協力隊の導入に向けて整備を進めようとしている物件など有り。すぐに移住を受け入れられる物件は少ない。不動産業者がいないため、個人対個人の賃貸契約になる場合がほとんど。
③医療環境の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島内に診療所が1軒。週一で医師が通っています。</li> <li>・急患はドクターヘリか、定期船が緊急で往復し対岸の宝伝にて救急車が待機し搬送。</li> </ul>
④福祉環境の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島外事業者の在宅介護サービスや島外からヘルパーが来島して生活支援を行います。</li> <li>・郵便配達員による見守り隊あり。</li> </ul>
⑤教育環境の状況	<p>島内には教育施設は無く、船で対岸の学校へ通います。</p> <p>対岸の港から小学校は徒歩で40～50分、中学校は自転車で40分程度。</p> <p>小中学校生は定期船代金の補助有り。</p>
⑥上下水道・電気・ガスの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島内の水道利用状況（普及率）は100%です。</li> <li>・下水道は無し、し尿処理施設が島内に有り、契約業者により計画収集されています。</li> <li>・ガスは対岸のプロパン業者との契約。</li> <li>・電気は、中国電力です。</li> </ul>
⑦本土との交通手段（費用、時間、便数など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期船あけぼの丸が一日最大8往復運行。片道300円。7分ほどで到着。</li> <li>・美術館施設の開館日は直島や豊島との連絡船が1日3往復しています。直島まで片道1850円所要時間55分、豊島まで片道1230円所要時間25分。</li> </ul>
⑧島内の交通手段（費用、便数など）	徒歩のみ。島が小さいサイズのため、バスなどなし。現在、一人乗りの小型電動自動車の島内使用テスト中。結果によって島内への設置を考えることにしています。
⑨買い物場所・物価の状況	スーパーなどが島内に無いため、定期船で買い出しに行く人が多数。CO-OP（生協）の利用も可能。買い出しなど島外に出るため、船の乗船代やバス代、または自家用車があると便利なため、都会に住むよりも移動費がかかります。

⑩これまでの移住実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自営業者が3名。</li> <li>・美術館スタッフが数年の単位で島内の寮などに居住。</li> </ul>
⑪移住を希望される方の短期滞在、下見に対する支援の状況	<p>2016年度に犬島の未来を考える会が発足し、町内会や島民の各年代が参加。最近では地域おこし協力隊への応募を考えている方に向けて、1泊2日の暮らし体験ツアーを実施しました。</p> <p>地域おこし協力隊以外でも希望があれば会で支援を考えます。</p>
⑫移住にあたっての支援の状況	<p>犬島の未来を考える会へ連絡をいただき、随時会にて支援を考えます。</p>
⑬そのほか島での暮らしぶりについて伝えておくべき必要な情報	<p>小さな島の小さなコミュニティです。人と人の距離がとても近いです。移住をお考えの方は、事前に下見と短期滞在をお勧めします。</p>